

自然保育推進事業 活動報告書について

1、団体名 さくらの杜ひより保育園

2、令和4年度の活動概要

本園は、街中に位置するため、子どもたちが遊べる自然環境がなかった。そこで、令和3年7月に安佐北区白木町三田地区に「さくらの杜白木」（自然体験施設）を開設し、子どもたちが気軽に自然体験できるような環境を整えた。この「さくらの杜白木」や、近くの海老山に出かけ、自然に触れながら様々な体験をした。はじめのうちは、何をしたらいいかわからない様子の子どもたちだったが、経験を重ねていくうちに自分たちの遊びを見つけたり遊びを作ったりしはじめた。四季折々の自然の中で遊ぶ経験は子どもたちの心を開放し、主体的に遊ぶ根っこを育てていった。

3、遊びの事例

【春】



”春みつけ”。春をみつけにさくらの杜白木へ出掛けた。新緑の色がとてもキレイだ。食べることのできる新芽や若葉を子どもたちと摘んで天ぷらにして食べた。また、草花を使ってままごとを楽しんだり、冬眠から覚めたカエルに出会ったりして春を楽しんだ。雨の降る日でもカッパを着て雨の自然と遊ぶことができた。はじめ、汚れることをためらったり、草花や生き物に触れることに躊躇していた子どもも、遊びに夢中になっていくにつれて、気にせずに遊ぶようになった。

【夏】

畑の活動では、サツマイモの植え付けを楽しんだ。雨上がりには、泥遊びに夢中になり、水の張った田んぼではたくさんのオタマジャクシを捕まえた。暑い日には、水路の水をせき止めてウォーターライダーを楽しんだ。河原の浅瀬で生き物を見つけたり、水遊びも楽しんだ。夏の暑さも遊びの中に巻き込んでいった。



【秋】



虫たちが大きくなり、子どもたちが虫捕りに夢中になった。大きなバッタやコオロギを捕まえ、虫かごいっぱいにした。その後飼育にも挑戦し、観察も楽しんだ。海老山では木の実や落ち葉で遊びを広げた。自分たちで自然に関り遊びの中に取り入れる姿が多くみられるようになった。

【冬】

畑で育てたサツマイモの収穫を楽しみ、その後焼き芋を楽しんだ。自分たちで育て、焼いたお芋の味は格別だったようでモリモリ食べた。枯れ木などで小さな家を作ってみたり、そこからおうちごっこに発展したりと、遊びに向かう意欲も増した。冬場は生き物も落ち着き、山遊びや探検も充実した。山遊びをたくさんしていく中で子どもたちの足腰もしっかりしてきたことを実感した。春が近づくにつれ蛸梅や冬芽などの小さな春見つけも楽しんだ。



4、今後に向けて

保育者が自分たちから進んで保育の中に自然を取り入れ、今以上に自然の中で遊ぶ楽しさを経験していけるよう研修を重ねていく必要がある。保育者が楽しんで自然に関わる姿が子どもたちをより自然保育に引き込んでいくことにもつながると考える。また、今年度経験したことを次年度に活かしていけるように、年間の計画づくり、環境づくりを整えていきたい。保護者と子どもたちに対して、自然保育の楽しさや魅力を伝えていくことと同時に、自然の怖さを正しく伝えていくことにも注力し、安心・安全の中で自然保育に取り組んでいきたい。